

WEEKLY SIGNAL

2020年3月19日(金) 1517号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	3/23(月)	3/24(火)	3/25(水)	3/26(木)	3/27(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 500	トシ	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他	+ 88,800	+ 7,000	△ 3,000	+ 11,000	△ 3,000
資金供給	+ 89,300	+ 7,000	△ 3,000	+ 10,000	△ 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債償還(5・10・20年・変動15年) 利払い			年度末諸払い	国債発行(40年)
オペ期日	国債補充供給 + 3,600 CP等買入 △ 400				米ドル資金供給用 担保国債供給 △ 2,900
オペスタート	国債買入 + 13,500 ETP買入 + 100 共通担保 + 1,500				
(日本)		日銀毎旬報告(3月20日現在)	金融政策決定会合における主な意見 (3月16日分)	企業向けサービス価格指数(2月)	
(海外)	ユーロ圏 消費者信頼感指数(3月)	米 新築住宅販売件数(2月) ユーロ圏 総合・製造業サービス業PMI(3月)	米 耐久財受注(2月) 米 FHFA住宅価格指数(1月)	米 GDP(4Q) 米 卸売在庫(2月) ユーロ圏 マネーサプライ(2月) 欧 ECB経済報告 英 中銀、政策金利発表	米 個人所得支出(2月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は、週初390兆8,400億円から始まった。18日スタートの貸出増加支援オペによって391兆200億円まで増加し、週末には国債買入オペを主因に393兆6,200億円まで増加して超過した。
無担保コールON物加重平均金利は、週初から足許の資金調達ニーズの高まりを受け徐々に上昇し△0.068%～△0.051%で推移した。一方向物取引は資金運用に目途を付けている先も多く、オファーが薄かったため閑散としていた。
今週の主な金融市場動向として、16日早朝にFRBが緊急利下げを実施し、政策金利を年1%～1.25%から年0%～0.25%とし、同時に量的緩和の再開も決めた。また同日には日本銀行も臨時会合を実施し、新型コロナウイルス拡大の影響を踏まえた金融緩和の強化として①国債買入れやドルオペを含む一層潤沢な資金供給の実施②新たなオペレーションの導入を含めた企業金融支援のための措置③ETF・J-REITの積極的な買入を決めた。来週の主な予定は、国内では金融政策決定会合における主な意見の公表(3月16日分)(25日)、海外では米 GDP(4Q)の公表、ECB経済報告等の公表(26日)が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.01
TDB 3M	△0.280 ~ △0.230
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜G P＞

今週の入札発行総額は約1兆5,500億円で、週間償還額(約1兆300億円)を大幅に上回った。発行市場は、連日、陸運業や電気機器等の大型案件が実施され、発行超となり活況となった。発行残高は、先週末の24兆2,840億円から18日時点では24兆7,260億円程度まで積みあがった。発行レートは上昇地合いとなり、マイナスレートでの発行は、期越えの発行頻度の少ない銘柄にとどまった。16日に日程を前倒しする形で行われた日銀金融政策決定会合では、CP等買入オペの上限額が1兆円増額(2020年9月末まで継続)されて3.2兆円となった。そのため、18日と26日のオファー金額は各々5,000億円のオファーに増額された。18日オファーに対しては、応募額が1兆8,165億円と、過去最高応募額となり、ディーラーの売却ニーズが強いことが確認された。結果は、按分レート△0.001%・平均落札レート0.002%と前回(按分△0.001%・平均落札0.002%)と変わらずとなった。来週の週間償還額は、月末日の大量償還(約3兆8,000億円)を含み、約5兆1,000億円となっている。発行市場は、事業法人が積極的にCPによる資金調達を進めていることから、引き続き活況が予想される。発行レートは、引き続き上昇地合いで、0%からプラス圏内での出合いが多くなるとと思われる。26日にはCP等買入オペが5,000億円程度オファー

＜TDB＞

17日の1M895回債(3/22償還)入札結果は、最高落札利回り△0.1981%(前回債△1436%)、平均落札利回り△0.2021%(前回債△1465%)となり、その後は△0.245%～△0.28%のレンジで出合いが見られた。また19日入札の3M896回債(6/22償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.2024%(前回債△0.1824%)、平均落札利回り△0.2897%(同△0.2385%)となり、入札後は△0.25%～△0.275%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M892回債(6/8償還)と同894回債(6/15償還)が△0.33%、6M893回債が△0.31%～△0.32%のレンジで出合いが見られた。

＜レポ＞

18・19日に開催が予定されていた日銀金融政策決定会合が16日に前倒し開催されたことや、17日以降国債買入オペが連日実施されたこと等もあり、足許のGC取引は△0.50%～△0.1%台前半と幅広いレンジで取引が行われた。SC取引では10年346回債の引き合いが多く見られ、△0.50%台前半～△0.30%台半ばで取引された。他2年405～410回債、5年137～142回債、10年336～357回債、20年164～171回債、30年59・62～65回債、40年9～12回債などに引き合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。